

## 第10回 小児肝臓・肝移植セミナーのご案内と演題募集のお知らせ

### 主題「小児肝移植の工夫と挑戦」

日 時：平成30年9月22日（土曜日）13：20-16：20  
場 所：東京医科大学 第1研究教育棟 3階第1講堂（東京都新宿区西新宿6-7-1）  
主 催：小児肝臓・肝移植研究会  
会 長：自治医科大学 移植外科 水田耕一  
参 加 費：2,000円

主題「小児肝移植の工夫と挑戦」で演題を募集いたします。小児肝疾患の診療に携わっている多くの施設からの発表をお願い致します。

テーマは、

- ① 小児肝移植における術式や術後管理の新たな工夫
- ② 神経学的後遺症を有する（予想される）患児に対する肝移植（適応や予後について）
- ③ 診断や治療が困難であった小児肝疾患症例

わが国の肝移植治療も30年目の節目を迎え、新薬や医療機器の開発・発展とともに、小児肝移植においても術式や術後管理における新たな工夫がなされていると思います（テーマ①）。また、心疾患、腎疾患、血液疾患を合併する症例では、手術のタイミングや術後の免疫抑制療法などに苦慮する場合がありますが、神経学的後遺症を有する（予想される）患児における肝移植の適応においても悩まれた先生方は少なくないのではと推察します。「脳出血、高アンモニア血症、肝性脳症などで、不可逆性の神経障害が出現する可能性がある場合、肝移植の適応はどのようにすればよいのか?」、「ミトコンドリア病やニーマンピック病C型のように肝移植だけでは神経学的予後の改善が期待できない患児に対しても肝移植はやるべきなのか?」、「新生児仮死で寝たきりの重症心身障害児となった子に劇症肝炎が発症した場合は、肝移植は禁忌なのか? チャレンジなのか?」ご両親の希望だけで移植適応と判断するのは賛否両論あると思います。個々の疾患や病態、重症度においてもその判断は異なるでしょうし、子どもの人権の問題、生命倫理の問題まで掘り下げていくと正解はないのかもしれないかもしれません。もし、各施設で神経学的後遺症を有する（予想される）患児に対する肝移植の適応や予後について課題の残った症例があれば是非ご発表頂き、みんなで討論する機会としたいと思います（テーマ②）。また、肝移植に限らず、診断や治療が困難であった小児肝疾患症例も広く募集致します（テーマ③）。

演題募集期間：2018年7月1日～8月31日

演題応募方法と応募先：A4用紙1枚・本文600字以内の抄録を作成していただき、事務局 眞田幸弘 ([yuki371@jichi.ac.jp](mailto:yuki371@jichi.ac.jp)) までメールにてお送りください。